

まちづくり交付金 事後評価シート
伊勢原駅周辺地区

平成20年12月

神奈川県伊勢原市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	伊勢原市		地区名	伊勢原駅周辺地区			面積	70ha			
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	2,690百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路事業(2路線)、市道改良事業(2路線)、地域生活基盤施設(地域案内掲示板)、高質空間形成施設(歩行者回遊ストリート形成)、都市再生交通拠点整備事業(伊勢原駅自由通路)											
		提案事業	事業活用調査(複合駐車場整備計画策定調査)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	市道修繕事業(4路線)	道路交環環境の改善を一体的に実施するため、修繕の必要性の高い路線を追加。				影響なし						
提案事業		地域創造支援事業(伊勢原駅自由通路整備事業に伴う支障移設工事)、事業活用調査(事業評価調査)	鉄道事業者との協議が整ったことに伴う事業の追加、事業評価の計測を行うため。				影響なし							
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	なし												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	まちなか南北往来者数の増加	人/14h	7,800	基準年度	H15	9,300	目標年度	H20	9,367		あり	基盤整備、自由通路とバリアフリー整備などにより、回遊性が高まり往来者増につながった。	平成21年11月頃
					なし									
	指標2	南口アクセス時間の短縮と目的交通の円滑化	回	4	基準年度	H15	1	目標年度	H20	1		あり	右左折レーン、信号現示の変更により、信号待ち回数が減少し、交通渋滞が改善。	平成21年11月頃
					なし									
	指標3	農産物直売所等の来場者数	人/年	160,000	基準年度	H14	210,000	目標年度	H20	253,594		あり	道路整備によるアクセスと回遊性の向上により来場者が増え、地区の活性化に貢献。	平成22年3月頃
なし														
指標4	歩行者のバリア解消率	%	25	基準年度	H15	80	目標年度	H20	63		あり	街路事業、施設整備等により、特定経路の整備が着実に進捗。	平成22年3月頃	
				なし										
指標5				基準年度			目標年度				あり			
				なし										
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1			基準年度		目標年度								
その他の数値指標2														
その他の数値指標3														
4) 定性的な効果発現状況	<p>・地域住民のまちづくりへの参加力の高まりが生まれた。具体的には、高質空間形成事業に係る住民及び商店会の活動であり、市で用意した事業説明の機会を上手く捉え、住民自らが事例視察を企画・実行し、住民と市の協働による施設整備となった。これにより満足度の高い高質化整備が得られ、さらには、施設の一部を住民が利用と管理に携わることが出来る施設としたため、将来的にも協力関係が期待できるようになった。</p> <p>・事業の実施に合わせ、民間部分でも一体的な協調整備が進み、まちづくりの多様性が進んだ。具体的には、民間建築活動により、地区計画の目標の実現へ向けた貢献や、利便性の向上による建築投資の誘発への期待。さらに、自由通路整備に合わせた民間協働開発が行われ、一体的な整備とともに市の窓口センターの設置が決まり、市民の利便性の向上につながった。</p>													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	事業関係課による「事業調整会議」の設置、計画等の進行管理		都市再生整備計画に記載し、実施できた				設置した全庁的な調整会議において、引き続き情報の共有化と新たな地区の検討などを進めている。						
		全庁的な調整会議の設置		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
住民参加プロセス	大原町商和会(伊勢原駅南口商店会)と大原町自治会の合同による活動		都市再生整備計画に記載し、実施できた				街路灯のパナー設備などについては、利用、管理について、地元と市との協力関係を継続していく。							
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	【伊勢原駅北口周辺整備協議会】		都市再生整備計画に記載し、実施できた				【伊勢原駅北口周辺整備協議会】 ・新たな推進組織の設立に向けて、関係者と調整する。 【伊勢原・誰もが住みよい街づくり懇話会】 ・市民の自主的な活動であるため、今後も尊重していく。							
	・区域内権利者、地区住民等の代表者による土地利用研究活動		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
	【伊勢原・誰もが住みよい街づくり懇話会】		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
		・1.5年間継続して取り組まれている市民・福祉のまちづくり点検活動												

様式2-2 地区の概要

伊勢原周辺地区(神奈川県伊勢原市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	実績値	評価
大目標 身近な中心市街地として、ゆとりと優しさに配慮した交通環境の改善と賑わいの再生 目標1 ゆとりと優しさのある玄関口へのステップアップ 目標2 駅周辺地区の道路交通環境の改善によるアクセシビリティの向上 目標3 バリアフリー特定経路の着実な整備推進と、地域産品など地域特性を活かした賑わいの再生	まち中南北往来者数の増加	単位:人/14h	7,800	H15	9,300	H20	9,367	H20
	南口アクセス時間の短縮と目的交通の円滑化	単位:回	4	H15	1	H20	1	H20
	農産物直売所等の来場者数	単位:人/年	160,000	H14	210,000	H20	253,594	H20
	歩行者のバリア解消率	単位:%	25	H15	80	H20	63	H20

まちづくりの目標

目標を定量化する指標

従前値

目標値

評価値

【基幹事業】
 都市計画道路田中笠窪線整備事業
 (地域資源を生かした回避路形成)
 L=400m, W=16m

【関連事業】
 都市計画道路田中笠窪線
 (地域連携を機能強化する東西軸の形成)
 L=290m, W=16m 電線類地中化整備

【基幹事業】
 市道318号線整備事業(ボトルネック解消)
 (行政センター地区内アクセス機能の強化)
 L=150m, W=11m

【提案事業】
 複合駐車場整備計画策定調査(市)

【基幹事業】
 伊勢原駅自由通路整備事業(市)
 (駅舎施設を活用した拡幅、エスカレーター整備)
 L=105m, W=8m

【提案事業】
 伊勢原駅自由通路整備事業に伴う支障移設工事(市)
 延べ床面積=760㎡

【関連事業】
 * 鉄道駅バリアフリー化事業(小田急)
 ・エレベーター設置
 ・市道172号線改良事業(市)など

【基幹事業】
 市道164号線整備事業(市)
 L=380m, W=6m

【基幹事業】
 市道175号線整備事業(市) L=215m, W=6m
 市道183号線整備事業(市) L=115m, W=6m
 市道186号線整備事業(市) L=179m, W=11m

【基幹事業】
 都市計画道路牛塚下原線整備事業(市)
 L=320m, W=16m ・電線類地中化整備
 市道71号線交差点改良事業(市)
 L=20m
 バリアフリー特定経路の整備(市)
 歩行者回避ストリート形成事業(市)
 (デザイン舗装・街路灯など)

凡例

● 計画地区
 ● 基幹事業
 ● 提案事業
 ● 関連事業
 ● バリアフリー特定経路

【関連事業】
 伊勢原駅北口整備事業(市)
 ・街路、駅前広場
 ・ペDESTリアンデッキ
 ・沿道街区整備
 ・電線類地中化事業 [L=300m, W=18m]
 想定される土地利用区分
 A街区: 商業・業務・サービスの集積ゾーン
 B街区: 地域に育まれた商業集積ゾーン

市内全域から集まる地域産品
 ・市民朝市, JA直売所
 ・ロードサイド型特産品販売

地域特産物を活かした
 散策・回避ルート

高機能を高めた
 拠点連携・回避ルート

既存商店会の連携軸

都市計画道路田中笠窪線(回避路整備)

市道整備(修繕)事業

都市計画道路牛塚下原線

自由通路橋上部

自由通路階段エスカレーター部

現地サンプル設置による地元デザイン検討

まちの課題の変化

・交通結節点における都市基盤の整備・改善は、駅南口を中心とした基盤整備、高質空間形成、自由通路の整備とバリアフリーの推進などにより、駅南北間の行き来が増えるなど、交流が活発化してきている。しかしながら、駅北口の整備や地区間道路のネットワーク整備などの課題が残された。
 ・市民が愛着をもって誇れるふるさと伊勢原の顔づくりは、民間活動の活発化、地元との協働によるデザイン整備など、伊勢原の顔にふさわしいまち並みが形成が先導的に進んできている。一方で、駅北口の基盤整備やバリアフリー化整備の促進、身近な生活の安全性、快適性を高める整備を引き続き着実に推進する必要がある。
 ・これらの事業の実施を契機として、引き続き都市基盤施設整備の着実な推進と、まちの賑わいや交流を支える地域コミュニティ、身近な生活環境における安全安心の向上など、まちの段階的な成熟を支えるきめ細やかなまちづくりが必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・伊勢原駅南口については、デザインに配慮した街灯や歩道等の整備が完了することから、パナール懸架設備の有効活用など、地域商店会などが中心となった地域愛着の高揚と、協働による施設の管理・まちづくり活動の活性化を促進していく。
 ・伊勢原駅北口を中心に、幹線道路のネットワークを形成し、中心市街地や行政センター地区へのアクセス利便性を高める。
 ・生活道路の安全性、快適性を高め、地域交流の促進や防災機能の向上等により、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進する。
 ・バリアフリー特定経路の着実な整備を推進する。